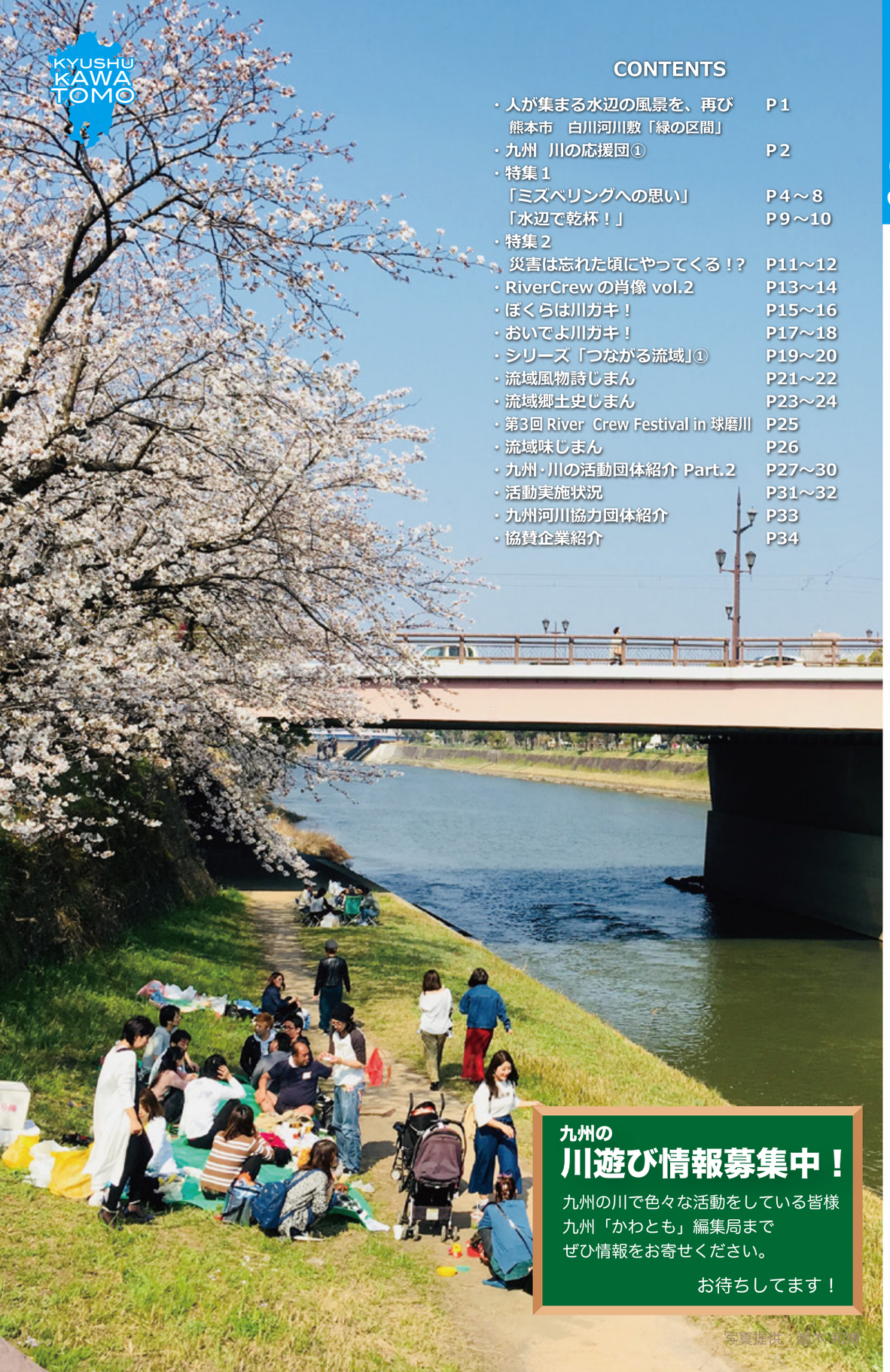
KYUSHU KAWA TOMO

CONTENTS

・人が集まる水辺の風景を、再び　P1
　熊本市　白川河川敷「緑の区間」
・九州　川の応援団①　P2
・特集１
　「ミズベリングへの思い」　P4～8
　「水辺で乾杯！」　P9～10
・特集２
　災害は忘れた頃にやってくる！？　P11～12
・RiverCrew の肖像 vol.2　P13～14
・ぼくらは川ガキ！　P15～16
・おいでよ川ガキ！　P17～18
・シリーズ「つながる流域」①　P19～20
・流域風物詩じまん　P21～22
・流域郷土史じまん　P23～24
・第3回 River Crew Festival in 球磨川　P25
・流域味じまん　P26
・九州・川の活動団体紹介 Part.2　P27～30
・活動実施状況　P31～32
・九州河川協力団体紹介　P33
・協賛企業紹介　P34



九州の
川遊び情報募集中！

九州の川で色々な活動をしている皆様
九州「かわとも」編集局まで
ぜひ情報をお寄せください。

お待ちしてます！

写真提供　菅小河内

九州かわとも
川あそび情報誌
九州かわとも「やっぱり川へ行こう！」
第２号
2020 年 3 月発行
編集発行：「九州かわとも」編集局
事務局：九州河川協力団体連絡会議

第２号
TAKE FREE

川　あ　そ　び　情　報　誌

九州かわとも

特集１

ミズベリング　プロジェクト
MIZBERING PROJECT

「ミズベリングへの思い」
国土交通省九州地方整備局
河川部長　藤井　政人　氏

「水辺で乾杯！」

特集２

「災害は忘れた頃にやってくる！？」

「九州・川の活動団体紹介」part.2

人が集まる水辺の風景を、再び

熊本市　白川河川敷「緑の区間」

緑の区間は、大甲橋から上流を眺めて、河岸に繁茂する樹木と、正面に見える立田山の風景が熊本のシンボル的景観ということで市民が親しまれ、憩いの場となっていましたが、一方で治水上の論争もありました。この場所は川幅が狭く、万一氾濫すれば市街地に被害が出るため、整備が必要でしたが、平成１４年に「白川水系河川整備計画」が策定され、現存する樹木を極力残す堤防の位置・構造とし、住民の意見を取り入れながら、植生による緑地整備や都市空間での水辺づくりに取り組む事が定められると、１８年度からは「白川市街地部景観・利活用検討会」が発足。地元町内会を含む地域住民、行政、専門家で話しあいを重ねながら、整備案、施工後の利活用、維持管理への市民参加等が検討されました。その結果、スイス等の近自然の思想をヒントにデザインが工夫され、既存の樹木を活かし、景観を維持しながら、堤防としての機能を確保しつつ、河川を拡幅するという整備方針が決定されました。施工では、最も大きいクスノキ２本は小学生や市民等が参加をして、江戸時代以来の伝統造園技術「立曳き」によって移植されました。護岸の石積みは、加藤清正がつくった熊本城の石積みをモチーフに、職人たちが一つ一つ石を積み重ねました。また、水辺も歩けるような遊歩道をつくって市民に親しまれる工夫も盛り込みました。

「緑の区間」は景観デザインや利活用の検討の場に多くの地域住民が参画して進められた事業で、いわば官民協働の結晶とも呼べる場所です。平成２７年４月の竣工後、空間が市民に開放された事を機に河川管理者と地域住民、事業者等が一堂に会して空間の利活用を検討する「ミズベリング白川７４」が開催されました。当時の住民への意識調査では、平成２４年九州北部豪雨の影響もあり、白川は危ない、怖い、汚い、近寄りにくいといったネガティブな声が多数寄せられていましたが、「白川から始まる新しいミズベの未来～まちとつながるオープンリバー～」をコンセプトに、関係者の熱意と創意工夫が実り、期間中に開催された「ミズベリング熊本白川会議」、そして緑の区間でのマルシェに４日間で１万人もの住民が来場。緑の区間での継続的なオープンカフェの営業や定期的なイベント開催を望む声が出店者、来場者双方から寄せられ、「かわ」と「まち」が一体となったまちづくりに光明が差しました。

現在では、河川敷地の利用調整の方法等に向けた検討や利活用を行って行く際のルール作り等、利活用についての総括的な審議を行う場として、地元自治会、商工関係者、河川利用関係、有識者、地区代表と行政で構成された『白川「緑の区間」の利用を考える協議会』が主体となって、月に一度、「白川夜市」の開催による利活用の実証実験を行っています。

毎回、市内外から多くの来場者が訪れ、ここでしか味わえないグルメや体験、そして水辺の雰囲気を楽しんでいます。そこから、住民が主導となって、河川敷の除草などの「水辺を守る」取組も誕生しています。命の恵みをもたらす河川。その恩恵を享受する住民皆で川を守り育む時代がすぐそこまで来ています。

九州　川の応援団①

熊本県嘉島町長
全国町村会会長　荒　木　泰　臣

「九州かわとも」第２号の発刊を、心からお祝い申し上げます。今回は本町を流れる河川について知って頂きたく、ご紹介したいと思います。

嘉島町は、熊本市の南部に位置し、九州山地に源を発する緑川の中流域にあり、加勢川、矢形川などに囲まれ、昔から川の恵みを受けてきました。一方では、わずか 20 年ほど前まで度重なる水害に大いに悩まされてきた地域でもあります。その後、国土交通省による治水対策や河川環境の整備が進められ、浸水リスクが 減少し、安全で暮らしやすい町になりました。ショッピングモールや工業団地の誘致などが進み、いわゆる河川事業のストック効果を実感しているところです。引き続き河川事業を進めていただく事で、更なる地域の発展を期待するところです。緑川は、自然や歴史豊かな河川でもあります。かの加藤清正が大規模な治水事業を施したことでも知られ、鵜の瀬堰をはじめとして、現在もその遺構や石橋が数多く引き継がれています。

さて、私が小さい頃は、今のようにプール等は無く、夏の遊びと言えば「川遊び」ということで、子ども達は川に泳ぎに行っておりました。私の住む地域は、指定水泳場が緑川水系の「御船川」でしたので、そこで遊泳や魚釣りをしていました。泳ぎは遊びながら自然と覚えたものでしたね。小さいときは井出（水路）で泳いで、高学年になると緑川の深いところで泳いでみたりしていました。

また、私の家では緑川で砂利採取業を行っておりましたので、特に緑川との関わりは深く、川には夏だけではなく、日頃から遊びに行く場所だったという記憶がございます。

緑川では、毎年約２万人が参加する「緑川の日一斉清掃」や「漁民の森」の整備活動など、山から海まで、つまり上流から下流まで流域全体が連携した取組が、全国に先がけて活発に行われてきました。

また、緑川ならではの体験型のイベントや、環境保全活動なども、多くの活動団体の皆様により継続的に行われておりますが、一方で山林荒廃などの環境悪化、災害の激甚化、人口減や少子高齢化など様々な課題を抱えております。近年では、平成 28 年４月に「熊本地震」が発生し、本町においても緑川の堤防等を中心に甚大な被害が確認されました。国土交通省をはじめとする各行政機関の協力等を得ながら、早期の復旧がなされてきましたが、そのような折、工事完了目前の平成 29 年４月に、そのお祝いと併せて、緑川流域の連携をより強固にしていくために「緑川流域復興イベント」が開催され、そのイベントにおいて、緑川流域の各首長を交えて、流域の町づくり、地域づくりと緑川との関わりについて語る「緑川流域サミット」が始まりました。

これらの行事については、昨年４月に発足した「緑川流域会議」という組織が企画・運営していますが、この組織は緑川の河川協力団体、住民団体と関係行政機関が一体となった組織で、会長の田中洋丞さんをはじめ、若い皆様が要職を務められております。この若い力で緑川流域の連携強化が進むことを期待しています。本町においてもこれからの緑川流域の活性化に少しでも繋がるよう、緑川流域会議や各市町と議論しながら、より良い取組ができればと考えております。

話題を変えて「水防災」について考えますと、令和元年は日本各地で豪雨災害が頻発し、特に関東地方を中心に甚大な被害に見舞われました。九州においても８月には佐賀、長崎を中心に記録的な大雨により、大きな被害が発生しました。本町においては大きな被害こそ発生しませんでしたが、現在の異常な気象状況を鑑みますと、いつ大きな災害が来てもおかしくないような状況にあります。河川改修等のハード整備はもちろん、ソフト対策も大変重要です。私は「緑川改修期成会」の会長の立場でもございますので、ハード・ソフト対策の促進に取り組んでまいりますが、避難対策や防災教育への取組の推進などのソフト対策や災害後の支援などにおいては、流域連携の強化が地域防災力の向上にも繋がりますので、このような視点においても今後、連携や協力をしてきたいと考えております。

最後になりますが、九州各地で河川活動に携わられる皆さんにおかれましては、活動を行う上で、ご苦労等あろうかと思いますが、それぞれが連携・協力され、益々のご発展となりますよう祈念し、結びとさせていただきます。

那珂川（福岡市）

人が集い、まちが潤う ～ミズベリングプロジェクト～

ミズベリングは、かつての賑わいを失ってしまった日本の水辺の新しい活用の可能性を、創造していくプロジェクトです。
ミズベリングは、「水辺＋RING（輪）」、「水辺＋R（リノベーション）＋ING（進行形）」の造語。

～市民に親しまれる水辺～

市民や民間企業がオープンカフェを出店し、魅力ある水辺空間として市民に親しまれています。

熊本市街部を流れる白川「白川夜市」

～周辺環境と調和した水辺空間の創出～

地域の景観、歴史、文化などの「資源」や創意に富んだ「知恵」を活かし、「かわ」と「まち」が融合した良好な水辺空間を創出します。（かわまちづくり）

延岡市を流れる大瀬川「鮎やな」

特集１　ミズベリングへの思い

九州地方整備局河川部長
藤井政人インタビュー
聞き手：中村 なおみ氏

藤井 政人さん　中村 なおみさん

夢を語ろう！

□中村：本日は、ミズベリングへの思いなどいろいろお聞きかせください。

まず私が、藤井部長に初めてお会いして印象に残っているのは、九州河川協力団体連絡会議でご挨拶に伺った時にお聞きした三つの言葉です。

□藤井：自由な発想とエネルギーが大事。よそ者、若者、馬鹿者ですね。

□中村：そうです。「若い職員にも夢を持たせて、夢を語らせてください。」と言ってくださったときに、何かが変わる予感がしました。河川協力団体で次世代の発掘をテーマに話し合いをしているとだんだん難しく考えてしまうのですが、「楽しむ。」とか「夢を語る。」とかそういう関わり方が伝わっていって、それで結果がでれば一番いいなと思ったのが、その時の印象でした。私自身ミズベリングについてもよく理解していないところもあります。

□藤井：難しいですよね。言葉の語感は頭から入るかもしれないけれど、「何?」って聞かれた時に、何だろうって。誤解している人がいっぱいおられて、人によっては「ミズベリング事業」という人もおられるんですよ。

□中村：「事業・・・?」

□藤井：何で事業なんだよって話なんですが、その程度にしか受け取られていないケースがあるんです。単にイベントをやっている取り組みだと。今、その様な方が多いのかもしれないなと感じています。

□中村：ミズベリングの本質はどういうものなのかをぜひ教えていただきたいと思っています。

発足の時期やこれまでの歴史、何を目指されていたのかということについてお話いただけますか?

□藤井：発足の時期は2013年です。私が本省の河川環境課に赴任したのが2012年9月で、その直前で金尾健司さん（元水管理・国土保全局長：現独立行政法人水資源機構理事長）が河川環境課から河川計画課に異動された時期に、二人で「何か、面白くないな。」と、私が以前河川環境課にいた1996年頃は、河川法が改正されて河川環境のスタートの時代で、国交省の河川部隊は元気があって、若い世代が現場に行って、市民団体やNPOの皆さんと楽しく仕事していた時代でした。「皆でやりましょう。」「皆さんがやりたいことは何ですか?」、「お手伝いしますよ!」とやっていたのが、2000年代のはじめ頃まで。

□中村：その時は、川に対する思いとか、こんな川にして行きたいというのを前向きに語られる職場環境だったんですね。

□藤井：そうです。官も民の皆さまもお互いに夢を語っていた時代なんです。

河川管理者がその頃から夢を語れなくなって、語らなくなったといった方が当てはまると思います。

□中村：それは、どうしてだったのですか?

□藤井：それまで、市民団体やNPOの皆さんと一緒にしていたいろんな仕事に制限がかかるようになり、やらなくなったんです。そうすると予算も削られ、どんどん悪循環が始まる。そしてどうなるかというと、そういうことを考えもしない世代になってしまったんです。

やった方が良いとか楽しいとか、やりたい人がいるとか、そういうことすら考えなくなってしまっていました。

□中村：ということは、そこに河川管理者の思いというものがなかなか乗っかってこない職場環境になってしまっていたと言うことですね。

□藤井：河川管理者としての思いが何も無くなってしまっていた、何をやりたいんだと言っても、無い、何も出てこないし、「何をしてほしいか?」と聞いても何も出てこない。というのが、河川環境課に行った2012年頃の状況でした。金尾さんとも「何か楽しいことやろうぜ!」

と言っていたのだけど、以前あった会議や回す仕組みなんかも無くなっていました。たった5年で。

□中村：皆さんがイキイキと活動したりできるものがなくなってしまったと言うことですか。

□藤井：河川協力団体という制度が出来て、これまで細々と関係を繋いで河川管理者とお付き合いをしてきた団体の皆さんをフォローするという制度が出来て凄く良くなったと思うのですが、河川管理者はどうなの？河川管理者として、自分の夢なり、こうしたいといえる度量がありますかと。

最初は、これも言っちゃいけない、これはやっちゃいけないだったけれども、いつの間にかやらなくていいと。

それを何かやれと言った時に、先ほど話した会議や仕組みに何が足りなかったかと考えた時に、河川管理者だけではないのですが、河川という空間をどうしたいのかと考える人が誰もいなくなってしまったと感じました。

自然環境を保全するという意味での人はいっぱいおられるけど、それ以外のいろいろな次元で、本来開かれた空間であるべき河川空間をどう使ったらいいのか、どういうふうに提供したらよいのかということを考える人がいなくなってしまったなと。

□中村：やっぱり、切ないですよね。それまですごく熱く語って、みんなで温めていたものが無くなってしまうと。どうしたらできるのか、どうしたらその時に戻れるかという気持ちもあるでしょうから。

かわろうよ！！

□藤井：ミズベリングっていう概念がはじまって5年経ちましたけれど、昔のような状況に戻っているかというと、全然そんな風には思っていません。

□中村：今も、関わり方が以前と違うということですか？

□藤井：関わり方も違うし、関わらなくてもよいというのもあり、それじゃ駄目だと思って、2013年12月に“水辺とまちのソーシャルデザイン懇談会”を立ち上げました。

それまでにも、いろいろなことを仕掛けてやっていたのですが、何かしたいというので、リバーサイド・ドリンクスを東京でやったんです。川とか水辺に対して何か言いたい人が集まって飲もうという会で、水辺に有るちょっとおしゃれなバーを貸し切って会費制で開催して、100人くらいの川に熱い思いを持った方々が参加してくれました。

□中村：100人。凄いなと思います。どんな人たちが集まられたのですか？

□藤井：全然知らない人、起業家の方がいたり観光協会の方とか銀行マンの方とかデザイナーの方とかでした。学識者はほとんど来ない。Facebookで、「イベントやりますよ！！」と呼びかけしただけなのですが、いやぁ熱かったね。季節も暑かったけど、それ以上に参加した皆さんの思いが熱かった。

□中村：昔を思い出すような熱いエネルギーがそこにはあったと言うことですね。

□藤井：そうですね。やっぱり僕ら（河川管理者）が、こういう声をいつの間にか聞こえなくなっていたし、聞かなくなったなという想いが凄くありました。「もっとこういう風にやりたいんだけど、どこどこに行ったら断られた。」とか。「こんなことやっちゃ駄目なんですか？」など。

行政だけで考えても駄目で、結局、行政で考えても限界があるので、結局、自分たちが作ったルールに縛られて判断してしまう人が大半だし、そこからはみ出てしゃべる職員なんてほとんどいない。

□中村：私たちも、決められたルールからはみ出すことは、なかなかできないですよ。

□藤井：僕は、はみ出さないと新しいことなんか絶対生まれないと考えています。市民団体、あるいは企業の皆さん方と、河川という街の中にある財産を、どううまく活かしていったら良いのかと言うことを、やっぱり、そういう発想や視点の違う人たちと交わり、ちゃんと話が出来る人（職員）を作らないと、河川管理者の中にそういう人を作っていかないと、世の中、変わらないんだろうなと思います。とすると、今までのやり方では、全然駄目で、やっていても響く人には響くかもしれないけれど、多分広がりは殆んどないんだろうなと思います。むしろ、外のそういう話を聞くことで、そういう人達がやりたいと思っていることを色々聞くと、もっと発想なり幅が広がるんだろうなと思います。そういうやり方、要するに自分で考えていることも大事だけれども、人から聞いたことを、そういう人達を、どうお手伝いしていったらいいのかとか、そういう発想の転換をしていかないと駄目なんだろうなと思いだして、それが2014年の3月に立ち上げたミズベリングに繋がりました。

市民、企業、行政から200人超が参加したミズベリング東京会議（2014.3）

「水辺の未来」（ミズベリング東京会議参加者のアイデア集約）

□藤井：環境を変えるきっかけとして、ミズベリングを考えられたと言うことですね。

□藤井：ミズベリングの基本コンセプトは三つです。一つ目には「賢く使う。」要は、賢く使うというのは、工夫すればいろいろな使い方が出来るはずだと。先ずは、「民間のノウハウをちゃんと聞きましょう。」「行政だけで判断するな。」というのが二つ目。三つ目が、「ソーシャルデザイン」ということだけど、そういうことが取り組めるような社会を作りましょうとの考えです。

□中村：そうやってスタートしたわけですね。そこに込められた想いとか、だんだん皆さんの気持ちが一つになって進んでいったと思うのですが、如何でしたか。

□藤井：1回目は2014年の3月22日に、“ミズベリング東京会議”というのをやったんです。結果的には“東京会議”って言ったのが、良かったみたいです。

□中村：どういう風に、良かったんですか？

□藤井：その後、ご当地会議が山ほど出来ていくんですよ。

□中村：嬉しい変化ですね！それは続いているんですか。

□藤井：続いているところもあるし、一発やって、終わってしまったところもあるし。それは、様々。川に関わる皆さんのやる気の問題なので。続いているところは、今でも続いていますよ。

かわらないと！！

□中村：やっぱり、地元の方々から声が上がるのが、いちばんいい形なんだと思いました。例えば、水辺を活用してやってみたいことを実現するときに、地元には建設会社の人や印刷会社の人がいたりして、「よし、許可がおりたら、みんなで協力してやって行こう。」となる気がします。

□藤井：どちらかと言うと、許可が下りたらというよりも、許可を下ろしに行けという、僕はそっちの主義なんです。やりたいことがあるんだったら、それをちゃんと話をしてごらんよと。「面白いけど、でも、このままじゃ出来ないから、もうちょっとやり方を変えませんか。」ぐらいの話が出来ないと、僕は、だめだと思っています。

□中村：なるほど。こういうことを、ちゃんと考えておけば出来ますよと、出来るやり方を言われると、私達もそうなんだと気づく。そういうことを重ねていくと、自分達としてはこうしてみたいけど、ここが問題だね。じゃあ、1回相談に行ってみようという風に、先ずは一歩進むというか、いい関係性ができますよね。

□藤井：そういう風に河川管理者の考え方も変えなきゃいけないし、関わり、やりたいと思っている人も、変えてもらわなきゃいけないし。ただ単に、普通にやっているだけじゃ、これ、ただの一過性のイベントになってしまいますよね。

□中村：河川管理者の方々の意識が変わって、そういう風に提案してくださるようになって、私達の意識も変えていかないといけないというのは、具体的どういう所なのでしょうか。

□藤井：お願いしているだけでは駄目だと思います。あれやってくださいと言っているうちは、何も進まないですね。

□中村：こんなことをやりたいという想いが無ければ、意味も無いということですよね。お願いするという持っていき方じゃなくて、「この地域の川で、こういう事がしたいんだ！」って具体的にあって、それを相談しに行くことが大事ということですね。

□藤井：それじゃないと、僕はだめだと思いますね。

　ミズベリングって、そもそもっていう話もそうなんですが、自分がやらなきゃ、自分がやりたいと、思うか思わないかで、随分違うんですよ。それは、大きなものであろうが小さなものであろうがはどうでもよくて、やりたいと思うか思わないかが問題で、やりたいと思わなきゃ、事は起こらないじゃないですか。そういうことは、ちゃんと事を起こさないとだめだよって言うことしか、言っていないんです。

　だから、行政であろうが、市民団体であろうが、企業であろうが、やりたいと思わないと、ビジネスチャンスは生まれないじゃないですか。世界に出て行く、社会に出て行くチャンスなんて生まれないじゃないですか。

□中村：逆に言うと、やりたいという想いがあったら、声を上げていいんだよってことですよね。ミズベリングって、そういうものなんだと。

□藤井：そういうこと。ただ、全国的にやっているのが、結局、想いの強い人、いわゆる、ネット界で言うと、リア充層みたいな人が集まって、ワークショップみたいなことやるんだけれど。それだけだと限界があるんですよね。意識高い系の人しか来ないから。でも、川って、別にそこで何か活動しなきゃいけないというものではなくて、例えば、「夕方、ふっと歩いていたときに、夕日がすごく綺麗だった。」って、そういう「見える瞬間って、川で味わったことないですか？」とか。あるいは、「川って、明かりが少ないから、星がすごくきれいに見えるよね。」とか。あるいは、「若い頃につき合っていた彼女と、土手に座ってしゃべったことない？」とか。いろんな思い出が有ると思います。

□中村：そんな甘酸っぱい青春の思い出があるんですね。

□藤井：僕はないです・・・・・。

□中村：もう、想像の世界ですね。

水辺で乾杯！

□藤井：例えば、そういうこと。本来、川っていう空間というか、僕は水辺空間って言うんですが、自分たちの住んでいる街に近い、住まいに近い空間を、川も合わせて、全部ひっくるめて水辺空間と僕は言うんですが、そういうことを味わったことが、いっぱい本来あるはずでそういう想いを、もう一度味わうだけでも、「もっとこの場所って、こうした方がいいよな。」って想いが芽生えるから、意識高い系までは行かないまでも、その二段か三段ぐらい下になるかもしれないけれども、何か考えるきっかけを持ってもらえる、意識が芽生えることが出来るよね、というふうにも思ったりもして。それでスタートしたのが、この「水辺で乾杯」なんですよ。

□中村：なるほど。これ、「水辺で乾杯」というこのワード、すごく楽しいですよね。最初、飲み会から始まったという……。

□藤井：当時、本当は「水辺で乾杯」というワードじゃなくて、単純に1万人で飲めたらいいなと思ったんですよ。みんなで。ただ、一か所に集まるわけにいかないから。「水辺で1万人で乾杯」というのが、最初のワードだったんですよ。その「1万人で」を除いて、「水辺で乾杯」になったんです。

水辺で乾杯2019（那珂川・福岡市）

□中村：開催時期については、どうなんでしょう。

□藤井：最初何も考えていなかったですよ。基本的に、騒いで人に迷惑をかけないということ。ごみを出さないというルールさえ守っていただければ。あとは何でもいいんですよ。

□中村：出来る時に、やっていいんだよということですね。あんまり縛られすぎちゃいけないですね。

□藤井：都会のまねごとなんか、する必要はまったくなくて。そこの場所でやれること、やりたいことを、その場所に合うことを見つけることが大事だと思っています。

□中村：今日お話をお伺いして、出来ることや楽しめることは、もっとあるんじゃないかと思いました。これまで川の活動をされてきた方々や次世代の若者も、ずっとやっているといろいろ悩むこと、行き詰まることもあると思うんです。でも故郷の川、縁あって住んでいる場所の川で自由な発想で楽しむこと、それぞれのやり方で活用していくことの大切さと、その方法を教えていただいて、希望が広がりました。ありがとうございました。

藤井 政人
国土交通省
九州地方整備局
河川部長

中村 なおみ
九州河川協力団体
連絡会議　幹事
NPO法人かのや
コミュニティ放送 事務局

水辺で乾杯

最も身近ないつもの水 辺を、創造的にイメージする人が増えると、知らなかった地域の魅 力がきっと見つかる

MIZBERING

MIZBERING プロジェクトのひとつ「水辺で乾杯！」。2015 年にスタートしたこの取組は、７月７日の午後７時７分７秒に、水色の物を身につけて身近な水辺に集まり、乾杯をする。

そして、集まった仲間たちと水辺の景色を楽しむ風流な社会実験プログラムです。風や水面の流れに身をゆだね、いつもと違う時間の使い方をすることで、水辺の風景に、あらたな発見や想像が生まれます。その様子をインターネット上でシェアすることで、全国の水辺に新しい風景がうまれ、人と水辺の距離がちかくなるのです。九州各地でも「九州はひとつ」を合い言葉に、７月の水辺で乾杯！中秋の名月の時期には「水辺で月見で乾杯！」が企画されています。皆様も身近な水辺でプレミアムなひとときをすごしてみませんか。

何も作らなくていい、何もない水辺であなたが楽しめば、それだけで新しい風景が生まれる。

特集 2

災害は忘れた頃にやってくる！？

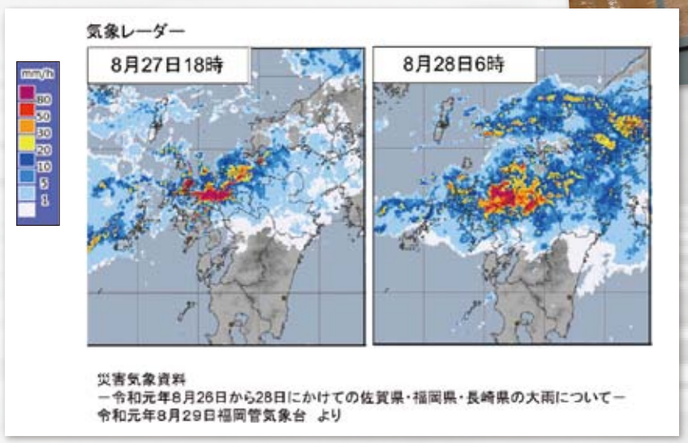
令和元年 8 月 27 日から前線の活動が活発になり、六角川流域では、主要な雨量観測所で戦後最大規模の洪水である平成 2 年 7 月豪雨を超える雨量を記録しました。河川や水路からの氾濫により、浸水面積約 6,900ha、浸水家屋約 3,000 戸となる甚大な被害が発生し、逃げ遅れた方々が水防団や消防、警察、自衛隊等により救助されました。

六角川流域は、干拓等により造成された低平地を流れる河川で、有明海の潮汐の影響を強く受けるため、これまでにも幾度となく浸水被害が発生してきました。昭和 55 年 8 月豪雨、平成 2 年 7 月豪雨による被害が有名ですが、河川整備等の進捗に伴い浸水頻度が減り、人々の意識から水害の記憶が薄れていくとともに、浸水常襲地帯の開発が進み、それが今回の被害を拡大する要因にもなりました。

気候変動等により雨の降り方が局地化・集中化・激甚化することが予想されていることから、被害最小にするために、災害を他人事とは思わず、自分の住んでいる地域の災害リスクを把握し、いざというときの避難行動や地域での共助体制を整えておくことが望まれています。

大角川　大町町付近
油流出状況

武雄市内　浸水状況



牛津川　堤防越水状況

水害・土砂災害の防災情報の伝え方が変わります

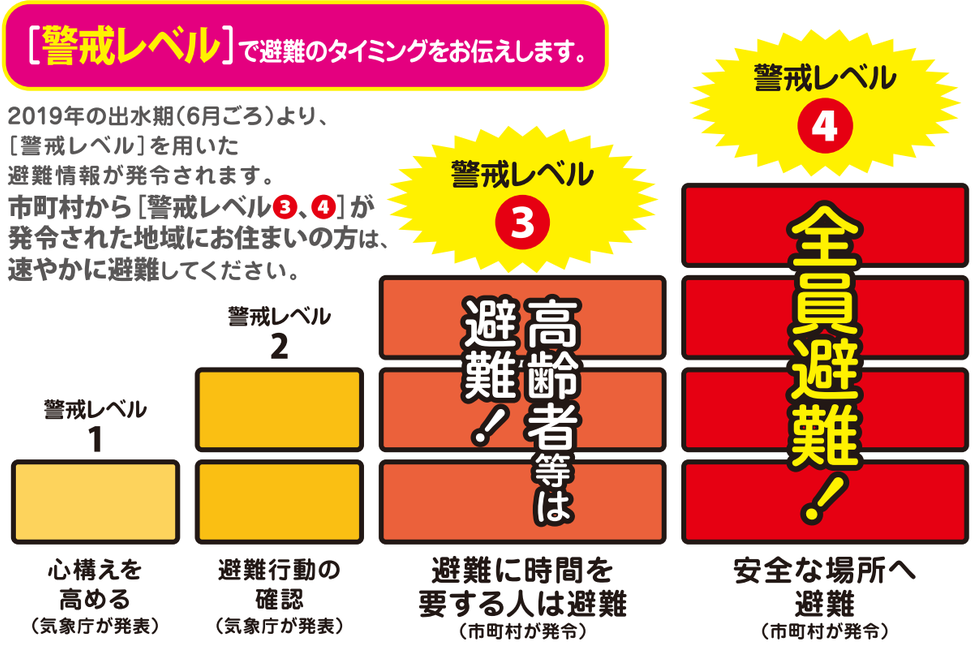
逃げ遅れゼロへ！

防災情報はいろいろあるけど
いつ避難すればいいの？

警戒レベル4で全員避難!!

［警戒レベル］で避難のタイミングをお伝えします。

2019年の出水期（6月ごろ）より、
［警戒レベル］を用いた
避難情報が発令されます。
市町村から［警戒レベル3、4］が発令された地域にお住まいの方は、速やかに避難してください。



［警戒レベル5］（市町村が発令）は既に災害が発生している状況です。

次のような内容で自治体から避難行動を呼びかけます！

呼びかけの一例
警戒レベル4 避難勧告の伝達文例

- ■緊急放送、緊急放送、警戒レベル４、避難開始。緊急放送、緊急放送、警戒レベル４、避難開始。 — 警戒レベルととるべき行動を端的に伝えます
- ■こちらは、○○市です。
- ■○○地区に洪水に関する警戒レベル４、避難勧告を発令しました。 — 避難勧告の発令を伝えます
- ■○○川が氾濫するおそれのある水位に到達しました。 — 災害が切迫していることを伝えます
- ■○○地区の方は、速やかに全員避難を開始してください。
- ■避難場所への避難が危険な場合は、近くの安全な場所に避難するか、屋内の高いところに避難してください。 — とるべき行動を伝えます

内閣府（防災担当）・消防庁

Surface! ～RiverCrewの肖像　vol.2～

轟美智代さん

Michiyo todoroki

特定非営利活動法人
レスキュー・サポート九州理事

一級河川「山国川」。大分県の英彦山で生まれた水は、中津平野を貫流し、大分県と福岡県の県境から周防灘に注ぎます。その流れは、名勝として名高い耶馬渓の景観を生みました。
その山国川流域を拠点に地域への防災教育や全国各地の被災地で支援活動を行うNPO法人があります。その名も、「レスキュー・サポート九州」。そこで理事として活躍する轟美智代さんにお話を伺いました。

目の当たりにしていた水害の脅威

記者　轟さんが災害支援活動を始めたきっかけを教えてください。

轟　　私は、山国川の近くに住んでいます。自宅前には旧山国川本流だった水路もあります。昔は少し雨が続くと床下浸水する住宅が何軒もありました。水害の怖さは、衣類や食料等が泥水に浸かってしまう事です。広域の災害でない為行政対応等はなく、近隣で助け合うしかありません。断水や停電、トイレの問題等、水害に遭うと元の生活に戻るために、多くの犠牲や諦め等を強いられます。辛い現場を見ていた事で何か支援をできないかと思っていましたが、当時は育児等、生活に追われ実践できないまま時間が過ぎていました。

　そんな時、昔から災害支援等をしている「レスキュー・サポート九州」の活動報告を聞く機会がありました。阪神淡路大震災や東日本大震災等、当時の現地の状況や支援活動を知り、私も出来る事があれば、実践しようと決めました。

記者　被災地など、危険な場所での支援活動に不安はありませんでしたか?

轟　最初は何ができるのかが明確でなく、被災地の映像や報道を見て、現地での活動に不安がありました。しかし、レスキュー・サポート九州では、「県境・山国川流域の連携」をテーマに地域づくり活動を実践する中で、防災減災事業の一環で自助・共助の底力を上げる、防災ボランティア・ネットワークでの研修を行っています。その研修会を受講し、安全管理や避難所運営、ボランティア保険の加入等、被災地での対応訓練を受ける事で、心配はなくなりました。

意を決して支援活動を開始

記者　それでは、災害現場で初めて支援活動をされたのはいつですか?

轟　平成２４年九州北部豪雨の際、山国川中流域も被害を受けました。自然災害による壊滅的状況を現地で見た時、果たして何が出来るのだろうかと考えました。その後、当会ではポカリスウェット２，０００本、大型テント１０張、その他シャツやタオル、レスキューキッチン（災害食を作る際、湯を沸かす機械）等を提供しました。飲料水については、県外の支援が届いていない地域にも配布しました。その時、自然災害からの復興の難しさを実感しました。

災害食を通じた被災地支援

記者　その際の経験でその後の活動に得たものはありますか?

轟　被災地支援は色々な関わり方があると思います。発災直後、びしょ濡れで避難所まで来ても、着替えがない、トイレが使えない、食料がないという状況を見ました。そこで、私ができる事は災害食の提供だと気づきました。

記者　災害時の食料提供は行政が大規模に行う印象があります。個人ができる支援は限られるのではないですか?

轟　私たちが実践する災害食の提供は、高齢者や障がいのある方、子ども連れの方等の避難が難しい方々、自宅避難者、車中避難者等、支援を受けにくい方々を想定しています。無事だった家 庭から持ち寄った食材や、私達が持参 した物資を利用して作るオリジナルで、「これで何ができるだろう?」等と、被災者と支援者が会話をしながら作ります。そうした作業は、会話や動作、食欲等を観察しながらの、安否確認の意味も含んでいます。

山国モデルを九州に発信したい

記者　平常時の人材育成や研修はどのようにしていますか?

轟　私達は、防災減災セミナーを年間２０回開催する他、地域や県下の学校で行われる防災訓練の企画や指導に年間１００件程携わっています。その中で、被災地支援活動での実体験を基に、現実的な災害食や災害時の備蓄等の指導を行い、次世代の育成や新たな仲間づくりに繋げる活動を行っています。それが災害時に被災者支援を行う体制作りにつながっており、「山国川モデル」として九州の河川協力団体との連携ができるといいなと考えています。

「九州はひとつ」を合言葉に

記者　今後の展開を教えてください。

轟　レスキュー・サポート九州は結成して２０年を迎えました。原点回帰として県境・山国川の新たな連携を目指した活動を考えています。また、九州の各団体等との連携を進めるためにWEBラジオの開設や、モービルハウス（移動型住宅）を活用した実証実験を行いたいです。モービルハウスは、平常時には防災カフェなどとして地域の交流の場に、非常時には、九州一円に移動して福祉避難所として活躍します。このような取組みを計画し、継続的・連続的に実行する事で、防災減災に資する流域連携、九州の河川全体の連携ができることを目指していきたいです。「九州は一つ一つ」ではなく「九州はひとつ」を合言葉に、自助・共助の底力向上を夢見て、多くの方々と仲間づくりで繋がり、九州の強靭化を目指していきたいです。

（了）

轟さんオススメ！

防災食レシピ

被災者と支援者が一緒に作る災害食
～助かるだけの防災から生き続けることが出来る防災を目指す～

私たちは、被災地支援活動を通じて災害食の問題に気付きました。発災前までは、普通に暮らしていたのに、災害と同時に生活が一変します。そんな、心が折れそうになっている被災した方々とローリング・ストックで備蓄している身近な常温食材を材料に料理を一緒に作り、提供する活動を展開しています。その中での会話から安否確認や心配事の相談等も同時に行えます。今日は数あるレシピの中から一部をご紹介致します。
※食材や分量などは、話し合いながら調節してください。

■アルファ米のお寿司（おいしく食べるために）
①袋に記入された方法でアルファ化米を戻す。
②出来上がるころ、すし酢を混ぜる。③でんぷんやソーセージ、鮭缶などを混ぜるとチラシ寿司風の食料が完成します。（右写真）

アルファ米のお寿司。
可憐な彩りで、心豊かになれそうです

■じゃがりこ・サラダ（「じゃがりこ」は、カルビー株式会社製の、ジャガイモを原料にしたスナック菓子です。）
①　菓子の容器のフタを半分開き、お湯を中の材料が浸かるくらい入れる。②フタをしめて約３分待つ（お湯がない場合は、水を入れて 60 分待つ）
③フタを外し、材料を箸などでほぐすと、ポテトサラダ風の食料ができます。
さらにおいしく食べるには、常温保存可能なマヨネーズやソーセージ、家庭菜園がある場合はキュウリ等を適量入れると良いでしょう。
乾パン等に挟むとしっかりしたおかずにもなります。

■ソーメンで作るぜんざい
①ソーメンを水につけ、3～4 回洗い、ビニール袋に入れて揉み、片栗粉を入れて好みの柔らかさにする。
②鍋に小豆（缶詰など）を入れて温め、そうめんの袋の端を切り絞りながら適量にして絞ると団子状になる。
③そのまま煮るとぜんざいが完成する。避難生活が長引くと甘いのもが欲しくなるので、これで賄います。

学びがいっぱい！ 川は先生！

川遊び以外にもいろんな体験を九州各地でおこなっているよ！
どんなことをやっているのかのぞいてみよう！

外来種から川を守る活動を行っているよ！

藻（も）っとる作戦

鹿児島県 肝属川（きもつきがわ）流域

NPO法人かのやコミュニティ放送

近年、テレビなどでも外来種の問題が取り上げられる機会が多くなりました。外来種の多くは人間の都合で別の場所からやってきたものです。なかでも、オオカナダモやブラジルチドメグサ、ナガエツルノゲイトウ、といった外来水草は、川面一面に広がり、生物多様性だけでなく、治水対策上の問題も起こします。鹿児島県のFMかのやが実施する「藻っとる作戦」をはじめ、多くの団体が外来水草の除去活動を行っています。

豪雨体験

大分県・山国川流域
NPO法人レスキューサポート九州

雨による災害が増える中ゲリラ豪雨の再現実験を体験！

１時間あたり 300 ミリの猛烈な雨を体験したよ。

火をおこしたりナイフで生活に必要な道具を作ったりできるようにサバイバル術を体験！
災害時に生き延びる力を養う事ができるんだ。

ブッシュクラフト

熊本県・緑川流域
NPO法人みずのとらベル隊

水害から命をまもる方法を学んでいるよ！！

流水模型で学ぶ洪水の仕組み

熊本県・球磨川流域次世代のためにがんばろ会・八代河川国道事務所

川のお魚に会いに行こう①

番匠おさかな館

大分県佐伯市

大分県佐伯市を流れる一級河川番匠川。その中～下流域に「番匠おさかな館」があります。番匠おさかな館は、次世代を担う子どもたちに自然環境と人間社会との関わりを感じてもらい、心豊かな成長への手助けができるような施設作りを目指しているそうです。それでは中に入ってみましょう。

■自然豊かな水槽で泳ぐワイルドな魚たち

館内に入ると、一般的な水族館とは景観の異なる２つの大型水槽が目に入ります。この水槽は屋外に設けられていて、水際には木々や草花が育ち、水中には太陽の光が差し込んでいます。水槽のアクリル板は、さながら自然の一部をきりとる窓の役割を果たしています。ひとつには滝のような流れ込みが設けられていて、上流域の荒々しい流れがリアルに再現されています。「滝つぼ」には、ひときわ大きいヤマメが「ぬし」のような風格を備えて泳いでいますよ。ヤマメの他には、アユ・カワムツ、そしてボウズハゼ等が混泳。一般的に水槽内で淡水魚を飼育すると自然環境下よりも色が薄くなるのですが、太陽光や水質等が自然に近いためか、とてもワイルドな感じがします。秋になると、タイミングが合えば、アユの繁殖行動を間近で見ることもできます。

水槽内に滝つぼを再現

アユの繁殖行動

■このコイ何キロ？

流れのある水槽のとなりには、一転緩やかな流れの大型水槽があります。ここにはコイやウグイ、フナ等の中～大型の淡水魚がマイペースで泳いでいます。水槽の脇には鯉のぬいぐるみと共に、「このコイ何キロ？」の表示。

緩やかな流れの大型水槽

何キロあるかな？

アカメ

抱きかかえてみると、ズッシリとした重さ。水槽内コイとほぼ同じ重さになっていて、見た目だけでなく、実際にそのサイズ感も味わうことができますよ。その他、九州の中では番匠川でしか見られないオオウナギや、アカメといった大型の魚から、ボラの稚魚、メダカ、タナゴ等が展示されています。魚以外に、イモリやカメなどにも会えます。

■世界の熱帯魚も展示

施設の一番奥には、温室があり、世界の熱帯魚を観賞する事もできます。大型のナマズの仲間のレッドテールキャットや、ピラニアの仲間、古代魚のポリプテルスエンドリケリー等、多種多様な魚たちが泳いでいます。九州・番匠川の淡水魚と海外の淡水魚の違い等を比べることで新しい発見があるかもしれませんね。

■資料も充実、こだわりの特別展、イベントも開催

もちろん、水槽展示以外も充実。展示パネル、書籍コーナー等で番匠川について広く学ぶことができます。また、定期的に開催されている特別展では、ひとつの生き物やエリア等にスポットをあて、より深く詳しく知ることができます。また、秋にはアユのつかみ取りイベントや、番匠川を使った水辺のアクティビティ体験も企画されていたり、地域の小学校等を対象にした自然観察の出前講座等も人気だそうです。

オオウナギ

ヤマメ

カワムツ

ボウズハゼ

ウグイ

コイ

熱帯魚が泳ぐ温室

屋外のアスレチック

■食べて、あそんで、リフレッシュ！

番匠おさかな館は「道の駅やよい」と隣接しているんです。食事や休憩、物産館でのお買い物はもちろん、温泉施設や子どもが遊べるアスレチックも併設されているので、朝から夕方までご家族でじっくり楽しめるオアシスのような場所ですよ。ぜひ遊びにいってください！

番匠おさかな館
住所：大分県佐伯市弥生大字上小倉 898-1
電話：0972-46-5922
開館時間：10 時～17 時
休館日：毎月第 2 火曜日･年末年始
入館料：大人 300 円 /小学生以下 200 円/
3 歳以下無料※団体割引あり
駐車場：有り（道の駅やよい駐車場をご利用ください）
http://michinoeki-yayoi.com/osakanakan/index/

遠賀川流域とリーダサミット

遠賀川流域リーダーサミットとは

遠賀川は、福岡県北部に位置し、その流域は飯塚市、直方市、田川市といった主要都市を含む 21 市町村で構成されています。流域内人口はおよそ６７万人、人口密度は九州内の国管理河川で最も高く、古代から稲作文化や日本の近代化を支えた石炭産業など、人々の生活、文化と深い結びつきを持っています。

そのため、流域住民は河川への関心が高く、流域内には約 80 もの住民団体が河川環境保全活動等を行っています。そのような中、住民団体が主体となり積年の課題であった水質改善やゴミ対策などの河川環境保全について住民団体、自治体、河川管理者等が意見交換を行う「遠賀川流域リーダーサミット」が平成 20 年に初開催、以降２年おきに意見交換を行っています。平成 24 年に開催された第３回流域サミットでは、流域 22 市町村長による「遠賀川をより美しい川として次世代へ引き継ぐことを宣言する」遠賀川流域宣言が行われました。

昨年で 18 回となった芦屋・若松海岸クリーンキャンペーンなど、河川環境の保全を目的に地域住民と行政や企業等との連携が進んでいます。

芦屋・若松海岸クリーンキャンペーン

遠賀川流域における地域住民と行政との連携は、河川環境保全活動のみならず、飯塚地区、田川地区、中間地区で展開されているなど河川空間を活用した地域活性化の取組や、これらの取組を流域全体の活性化に繋げるようとする遠賀川流域フェスタ（平成 30 年度より開催）などの取組が近年進められています。

河川敷を活用した「遠賀川流域フェスタ」

第７回遠賀川流域リーダーサミット in 宮若の開催

一方、遠賀川において観測史上最高水位を記録した平成 30 年 7 月出水や昨年の台風 19 号など、近年多発する大規模な災害発生時には、行政と地域住民の連携が防災・減災の観点から重要といわれています。

このように、河川環境保全とともに、地域活性化、防災・減災という観点からも遠賀川流域における地域住民と行政の連携強化は重要なテーマであることから、遠賀川河川事務所と遠賀川河川協力団体連絡会の共催による「第 7 回遠賀川流域リーダーサミット in 宮若」を令和２年１月 26 日に開催しました。

藤井河川部長の講演

活動の道しるべとなる「遠賀川流域宣言 in 宮若」

当日は、遠賀川流域内外から約 500 人もの聴講があり「地域活性化」、「防災・減災」をテーマに遠賀川流域 20 首長が一堂に集い、河川協力団体や子ども達の活動発表やパネルディスカッションが行われました。

パネルディスカッションでは、中間・直方・飯塚・宮若各市町、遠賀川河川事務所長、学識者とともに遠賀川河川協力団体連絡会の原口氏が登壇し、行政、住民、学識者と様々な立場からアイデアが提案されました。

河川協力団体の活動発表

最後にパネルディスカッションの内容をまとめた「遠賀川流域宣言 in 宮若」を流域 20 首長とともに遠賀川河川事務所、遠賀川河川協力団体連絡会が宣言しました。「遠賀川流域宣言 in 宮若」は、平成 24 年に宣言した「河川環境保全」に加え、新たに「地域活性化」、「防災・減災」についても、遠賀川流域全体で取り組んでいくこと、取組にあたっては、行政、地域住民、商店街、企業など多様な主体が協力していくこととしています。今後は、この流域宣言のもと、遠賀川流域では、様々な取組を多様な主体の連携によって進めていきたいと考えています。

遠賀川流域宣言 in 宮若（抜粋）

1. 私たちは、水源の森林や多様な生物の生息・生育環境を守り育てる取組を引き続き推進します。
2. 私たちは、自助、共助、公助のバランスのとれた防災・減災社会の構築に向けた取組を推進します。
3. 私たちは、遠賀川流域の魅力を再認識し、活力あるまちづくりの取組を推進します。

サミット成功を祝して関係者での記念撮影

| 流域風物詩じまん |

川内川河口に出現する霧の白龍

川内川あらし

鹿児島県薩摩川内市西部に位置する川内川河口付近では「川内川あらし」と呼ばれる自然現象が晩秋から新春にかけての寒気期に発生します。「川内川あらし」は一定の気象条件と、川内川下流域の地形との相互作用で起きるものです。薩摩川内市の内陸部で発生した朝霧が、ゆっくりと川内川沿岸をくだってきます。そして、下流部に到達すると、山と山の間を嵐のような強風を伴って、河口から海に勢いよく流れ出ます。一方で、霧の冷たい空気と、暖かい海水が混ざることで「けあらし」と呼ばれる蒸発霧も発生し、河口付近の一帯には白い龍にも似た、霧の大河が生まれるのです。おすすめのビュースポットは、河口部の北に位置する月屋山。標高160mの山頂には展望台が設けられており、川内川あらしだけでなく、薩摩灘の雄大な眺望も楽しむことができます。

JRおよび肥薩おれんじ鉄道「草津駅」より車で約５分。南九州西回り自動車道「薩摩川内水引IC」より車で約６分

流域郷土史じまん｜球磨川・八の字堰

球磨川に甦った めぐみの八文字

アユがすみやすい瀬の復活をめざして

清正が築いた「八の字堰」

天正 16 年(1588 年)、肥後国 19 万 5000 石の大名として熊本城に入城した加藤清正。生涯を通じ、領内各地で治水・利水・新田開発を目的とした土木事業を行いました。その功績は、今なお県内各地の河川や田地に恩恵をもたらしており、「せいしょこさん」と呼ばれ、土木の神様として信仰の対象にもなっています。

現在の八代市豊原上町に鎮座する「遙拝(ようはい)神社」。その地先は球磨川の急流が八代平野に入る地点であり、治水・利水上の要所です。

清正はこの地に、水の勢いを下流に向かっていなす「八」の字型の斜め堰を築き、洪水流を制御するとともに、灌漑用水を引く事に成功しました。この強固な石堰は、八代の用水の総鎮守である遙拝神社の名をとり「遙拝堰」と名付けられましたが、その形状から「八字堰」とも呼ばれました。長い堰体で流れを南北に分け、流れの先に設けた樋口で取水。長さは右岸約３５０ｍ、左岸約３００ｍ、流頭に幅３０ー４０ｍの船通しを備えていました。

その後、遙拝堰は昭和 23 年頃にコンクリート固定堰に、昭和 44 年には可動堰に改修され、「八の字」ではなくなりましたが、八代平野の農業・工業用水、上天草・宇城上地区の水道用水の取水堰として、重要な役割を果たしています。

環境保全を担い蘇った「八の字堰」

しかし、高度成長期の砂利採取や河川改修は人々に恩恵をもたらす一方で、川の環境に大きな変化を生みました。遙拝堰直下の水域には、古来より瀬が形成され、アユの餌場や産卵場となっていましたが、理想的な瀬が失われ、この地で確認されるアユの数が激減しました。そこで、瀬の回復を目指し、清正に関する文献を参考に、石積みによる八の字型の河床を遙拝堰直下に復元しました。自然石を使う事でアユ等の魚類が餌とする藻類が付着します。整備前と比べて、「はみ跡」が増えており、復活の兆しが見えています。また、下流側には瀬が、岸には砂州が形成され、かつてのようなメリハリある河床が形成されます。アユ以外にも、ウナギやカニ等、多孔質の環境を好む生物が増える等、自然再生に向けて期待されています。

球磨川は、熊本県球磨郡に源を発し人吉・球磨盆地、八代平野を貫流し、八代海に注ぐ一級河川。日本三大急流の一つで、川下り観光も盛んです。

アクセス
八代 IC より車で約８分
JR 八代駅よりタクシーで約５分

参考資料：八代河川国道事務所「球磨川の土木遺産」「球磨川の自然再生」より／写真提供：次世代のためにがんばろ会

「おすそわけ野菜のレストラン松原」の

松下（まつしも）ダムカレー

日本三大暴れ川とも呼ばれる筑後川の上流で、流域を洪水から守る松原(まつばら)ダムと下筌(しもうけ)ダム。このアベックダムを同時に「味わう」事ができるのが、おすそわけ野菜のレストラン松原の人気メニュー「松下ダムカレー」です。国の重要無形文化財にも指定されている小鹿田焼（おんたやき）の器に、ライスで重力式コンクリートダムの松原ダムと、アーチ式コンクリートダムの下筌ダムを、カレールーで「梅林湖」と呼ばれるダム湖を表現しています。ダムカレーには地元で採れた「おすそわけ野菜」等、季節の素材を活かした煮物、揚げ物、酢の物の和惣菜がトッピングされ華を添えています。カレールーもお惣菜とマッチするよう、スパイスを効かせながらも、和食とあう味に仕立てられていて、とても滋味に富む一皿です。

ダムカレーを味わい、両ダムへの関心が高まったら、ダム湖遊覧はいかがでしょうか。秋から春までの間、予約制で運航されており、船長のガイドを聞きながら、紅葉や雪景色、梅や桜等季節の風景を楽しめます。

また、松原ダム、下筌ダムを見学する事もできます。ダムの役割や仕組みを知ることができ、防災の知識も身につきますよ。堤体内の見学は「探検」のような冒険心をくすぐられます。見学後にはダムカードをゲット！ぜひご予約の上、見学ください。

松原ダム遊覧

梅林湖から見上げる下筌ダム

梅林湖

松原ダム見学

下筌ダム見学

エリアまでのアクセス
JR 日田駅または大分自動車道日田 IC 下車後、車でおよそ30分。

-Information-

①おすそわけ野菜のレストラン松原
■住所：大分県日田市大山町西大山 8492-1
■営業時間：平日 11 時～15 時、土日祝日 11 時～18 時
■定休日：火曜日■電話：0973-52-3110

②松原ダム遊覧船
■運行期間：10 月初旬～5 月初旬■1 日 3 便運航(10 時、12 時、14 時)前日迄の予約が必要。5 名以上で運行。
■電話：080-6409-8718■乗船料：大人 1700 円、小学生 800 円（未就学児は無料）レストラン松原での食事とセットで乗船料が割引になります。

③松原ダム見学（松原ダム管理支所）
■住所：大分県日田市大山町西大山 8492-2
■電話：0973-52-3121(管理係)■ダムを管理する事務所の為、状況によっては見学できない場合があります。

③下筌ダム見学（下筌ダム管理支所）
■住所：熊本県阿蘇郡小国町大字黒渕 5827-3
■電話：0973-54-3120(管理係)■ダムを管理する事務所の為、状況によっては見学できない場合があります。

川を守り 川を育て 川を使う

九州河川協力団体

私たちは大好きな九州の河川で活動しています！

川の活動に参加してみませんか？

九州では、４４団体が河川協力団体として活動しています。
年間１０万人以上の住民と交流し、河川管理者のパートナーとして、
川と人とが繋がる活動を進めています。

相乗効果！

河川管理者の目的

洪水などの災害防止
河川の維持管理、適正利用
河川環境の整備と保全

河川協力団体の目的

河川空間を利用した活動
環境学習
環境美化

想いを共有

河川協力団体とは･･･
河川の維持、河川環境の保全などの河川の管理につながる活動を自発的に行っている民間団体等を『河川協力団体』として法律上位置付け、河川管理者と河川協力団体が充実したコミュニケーションを図り、互いの信頼関係を構築することで、河川管理のパートナーとしての活動を促進し、地域の実情に応じた河川管理の充実を図ることを目的として制度化されました。

九州・川の活動団体紹介 part.2

みんなの川では
どんなことしてるのかな？
いっしょに見てみよう！
もっと知りたいと思ったら
団体名で検索してみてね！

問 お問合せ先　M メールアドレス
tel でんわ番号　fax ファックス番号
t.f でんわ＆ファックス兼用番号
f フェイスブック　hp ホームページ

福岡県

NPO 法人 遠賀川流域住民の会 1

遠賀川流域の28団体・個人が集まって活動しています。
上流から下流までの流域連携による“山－川－海”を通した環境保全、人との交流、地域おこしを目指しています。

hp http://www.ganbarokai.net/

熊本県

次世代のためにがんばろ会 19

次世代のために、官・学・民・産共同体制で環境保全を進め20年。球磨川地域で環境・防災、河川・浜辺の大そうじ大会、ごみゼロポスターコンクール、こどもごみパトロール、青少年WS・講演会等年中活動。

f https://www.facebook.com/y.ganbarokai/

熊本県

NPO 法人 天明水の会 21

「一滴の水をオアシスに」を合言葉に、山から海へ老若男女参加の活動を繰り広げています。
森づくり、山・川・海での自然体験・安全学習・清掃活動、竹炭による河川水質浄化活動等。

問 事務局　096-357-0557

大分県

NPO 法人 レスキューサポート九州 6

実践活動としては34年になります。当初は地域づくり活動を行っていましたが、阪神大震災の支援活動を機に地域づくりの基本は、安心安全な地域を目指すことだと気づき、被災地支援活動を通じ、これからの防災減災学習に取り入れた連続した活動をしています。

問 姶良川河川愛護会　TEL 0994-58-6020

鹿児島県

姶良川河川愛護会（肝属川水系） 13

オジサン軍団のパワーで、現在 150 名の会員で構成され毎年同じことを 40 年近く行っている事が誇りです。
故郷の川を後世に遺すことを目的にして、川に対する情熱を忘れず、地域住民・子供達と、鮎の放流、クリーン作戦、水質調査、大根花の除草作業、頑張っています。

熊本県

NPO 法人 白川流域リバーネットワーク 23

次世代を担う子供たちのための自然体験活動、白川流域住民の流域連携のための一斉清掃「しらかわの日」と自助力・共助力を高めるための水防災活動、熊本市内の小・中学生を主対象とした出前授業等を実施しております。

熊本県

菊池川育てねっと 26

菊池川育てねっとは毎月の清掃活動と年数回のイベントを行っております。
若手の団体が入ったことによってますます楽しい団体になることを期待して今後とも"遊べる菊池川"目指して活動していきます。

鹿児島県

バイオマスワークあったらし会 15

当会は、地元に眠る資源をあったらしの精神で、宝になるようにH17年から活動しています。
現在は、宮人川ビオトープの委託管理を中心に、あったらし喫茶や産業遺産等の活用に取組んでいます。
（あったらしとは鹿児島弁でもったいないの意味）

鹿児島県

NPO 法人 水と地球 17

活動のひとつ「みんなで宮人川をきれいにしよう！」は、夏場に地域と協同で川内川水系宮人川の川底のごみを竹ホウキでゴシゴシ、川の生物探しに魚網でピチャピチャしています。きれいな川を次世代に残す活動しています。

福岡県

矢部川をつなぐ会 27

矢部川をつなぐ会は、矢部川の自然景観を守り、文化を守る活動をしている流域の団体が、矢部川の水の恵みに感謝し、次世代に継承するために、平成 17（2005）年 11 月に発足。矢部川流域の上流から下流までの 10 団体約 500 人（20019 年 11 月現在）の集まりです。

福岡県

NPO 法人 大川未来塾 28

令和元年１１月に若津港近代化産業シンポジウム開催。明治以降の筑後川下流若津港の歴史探査、聴講者約２００名の参加にて開催しました。
多くの方より感動したとの意見が寄せられ盛会にて終了しました。

福岡県 29

筑後川まるごと博物館運営委員会

16年目を迎える当会は久留米市を拠点に、筑後川の自然や歴史、文化を学ぶ市民向け公開講座や現地学習会、子供達向けの水辺での体験活動やプロジェクトWETを活用した水の大切さを学ぶ活動などに取り組んでいます。

https://www.facebook.com/chikugogawa.marugoto/

福岡県 32

一般社団法人 北部九州河川利用協会

（一社）北部九州河川利用協会は、九州内の河川で活動する団体等への支援を行い、河川愛護や河川環境の整備、水防災に関する活動の推進を行っています。また、支援には学校枠を設け、中・高生への活動も支援しています。

https://www.facebook.com/kyushukasen/

熊本県 41

緑川の清流をとりもどす流域連絡会

緑川に清流を取り戻すことを目的として、環境保全活動や、川での学習活動等を地域と連携して実施しています。また、今年26回目を迎えた「緑川の日～流域一斉清掃～」は、緑川の上流から下流までの広範囲にわたって実施しており、毎年約2万人が参加する大きな活動となっています。

大分県 42

ななせ交流会

大分市野津原地区の七瀬川を守り育む「ななせ交流会」は、子どもたちの川遊び体験（写真）や花火大会・河川清掃活動・植樹活動など、ななせ川とななせダムへのふれあいを通じて地域を元気にしています。

大分県 33

NPO法人 下筌ダム湖と森の会

～上下流交流による筑後川源流の保全活動～

毎年、4月にダム湖周辺に桜などの植樹、10月に植樹周辺の草刈り活動を周辺住民と下流受益者と実施し、ダム周辺の環境保全活動を実施しています。秋の草刈りの際には、カヌーによる蜂ノ巣湖自然体験もできます。

大分県 35

松原ダム湖面環境推進委員会

当団体は、松原ダムの環境保全のためダム上流域に暮らしている方々を対象に、ダム管理者と連携したダム見学会の開催、ダム貯水池内の巡視、環境保全に関する看板の製作・設置といった活動を行っています。

宮崎県 43

NPO法人 コノハナロード延岡市民応援隊

五ヶ瀬川コノハナロード延長２キロで素敵な空間づくりを楽しんでいます。春は桜、菜の花、バラ、蝶、夏は綿花、秋は彼岸花そして２月には市内全中学校参加プロジェクト「三千本の風車」が堤防を彩ります。

https://www.facebook.com/コノハナロード延岡市民応援隊

熊本県 44

NPO法人 球磨川アドベンチャーズやつしろ

『球磨川は日本の遊園地』を合言葉に、夏は川の安全講習やカヌー体験・いかだ作りの「くまがわリバーランド」、冬は清掃活動・球磨川鍋の「くまがわ大感謝祭」を開催。他にも年間を通して川に親しむ体験活動を行っています。Facebookページあり。

佐賀県 37

自然と暮らしを考える研究会

松浦川水系・厳木川では地域の自然や歴史文化（水車）を生かし、小中学校と連携して地域の環境についての体験学習や川の安全教室の開催などを通して、多発する自然災害の恐ろしさや「命」の大切さを学んでいます。

suisha@po1.people-i.ne.jp

長崎県 39

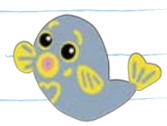
NPO法人 拓生会

諫早湾干拓事業により出現した広大な諫早湾干陸地を地域住民のふれあいの場、観光地ならびに農地など、地域の産業振興の資源として利活用を図るためコスモス等の植栽を行い、開花時期に合わせて毎年「３００万本のコスモス祭り」を開催しています。

合良川河川愛護会　稚鮎の放流

九州各地で自然愛護活動や防災学習、体験学習を行っています！子供から大人まで、楽しく学び体験したことを未来に繋いでいきましょう☺

みんなもおいでよ！



■九州河川協力団体 令和 元年度 活動実施状況■

アザメで魚とり・川で遊ぼう　鯉のつかみどり

36 アザメの会

中島地区水質・生き物調査　リバースクール・小城ルーテル子ども園

37 自然と暮らしを考える研究会

体験学習会（川の安全教室）　森林公園自然池での環境改善活動

38 嘉瀬川交流軸

教科書に沿った防災教育授業（流水模型実験）　くま川水浴場（河川敷で刈草サバゲー）

19 次世代のためにがんばろ会

竹炭作り　環境学習　南部公民館

20 加勢川開発研究会

天明中学校と竹炭焼き　緑川の日一斉清掃

21 天明水の会

命をつなぐ行動と防災展

22 みずのとらベル隊

白川緑川総合水防演習　親子流域体験学習

23 白川流域リバーネットワーク

河川学習（水生生物調査）　稚鮎放流体験

13 姶良川河川愛護会

ムーンリバーin九州　ドラゴンボート体験

14 川内川流域連携ネットワーク

第17回300万本のコスモスまつり

39 拓生会

第18回芦屋・若松海岸クリーンキャンペーン　第10回源流の森再生応援団

1 遠賀川流域住民の会

Night River 2019 in 笹尾川　笹尾川水辺で遊ぼう!

2 笹尾川水辺の樂校運営協議会

ムーンリバーin九州（球磨川）　プレート設置

24 球磨川ツクシイバラの会

きくちがわカヌーにのってウォッチング　さかなをとってきくちがわを観察する体験塾

25 菊池川流域連携会議

外で遊ぶ日

26 菊池川育てねっと

ムーンリバー　江津湖外来水草除去作業(作業前)

41 緑川の清流をとりもどす流域連絡会

リバートレッキング　八の字フェスタ／カヌー体験

44 アドベンチャーズやつしろ

宮人川をきれいにしよう　宮人川ビオトープイベント

15 バイオマスワークあったらし会

第16回川原魚つかみどり大会

16 ひっ翔べ!奥さつま探検隊

遠賀川ミズベリング　めだかの学校

3 直方川づくりの会

小学校児童達との河川敷花壇・花植栽　（遠賀川水系上流）彦山川へ鮭の稚魚放流

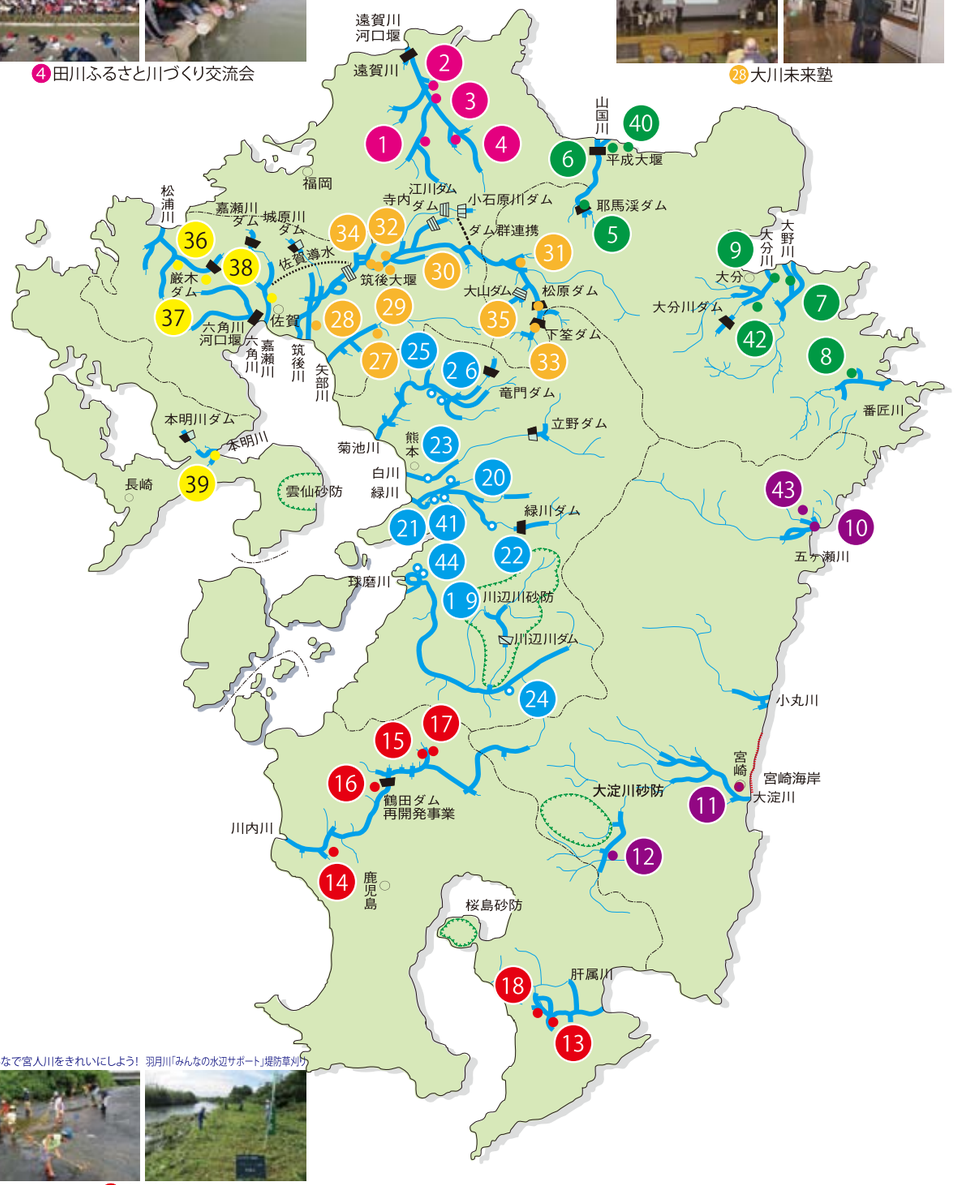
4 田川ふるさと川づくり交流会

みんなで宮人川をきれいにしよう!　羽月川「みんなの水辺サポート」堤防草刈り

17 水と地球

あいら川探検 2019　第12回「藻っとる作戦!」

18 かのやコミュニティ放送



現地見学会「星野川宮ケ原橋」　川の生き物調査・星野川

27 矢部川をつなぐ会

若津港近代化産業シンポジウム

28 大川未来塾

こーら川子ども探検隊　昭和28年筑後川大水害を伝える会

29 筑後川まるごと博物館運営委員会

久留米市災害ボランティアセンター運営支援　川遊び体験（リバースノーケリング）

30 筑後川流域連携倶楽部

子ども環境バスツアー　庄手川クリーンアップ大作戦!

31 ひた水環境ネットワークセンター

第6回クリーンアップ大作戦

5 耶馬渓の自然と景観を守る会

山国川防災学習　山国川防災学習

6 レスキュー・サポート九州

自然観察学習　カヌー教室

7 乙津川水辺の楽校運営協議会

水生生物による水質調査　自然体験活動を通した美しい宮崎づくり及び人財育成

10 五ヶ瀬川流域ネットワーク

大淀川の絶滅危惧植物「タコノアシ」の保全活動　水辺とのふれあい安全教室

11 大淀川流域ネットワーク

こーら川こども探険隊（河川愛護月間）　第2回 River Crew Festival in 緑川 次世代サミット

32 北部九州河川利用協会

上下流草刈り交流会　蜂ノ巣湖桜まつり

33 下筌ダム湖と森の会

筑後川リバークリーン活動　コカ・コーラウエスト委託事業　筑後川リバークリーン活動

34 Good News

松原ダム見学会　松原ダム湖面清掃

35 松原ダム湖面環境推進委員会

水辺の楽校開放事業　川の授業

8 番匠川流域ネットワーク

大分川　川の教室　大分川河川花壇花植

9 津留地区ふるさとづくり運動推進協議会

山国川お魚観察会　環境教室（出前授業）

40 水辺に遊ぶ会

地域の里まつり手作りロック君と出展　台風のため室内で生物観察

42 ななせ交流会

大淀川こどもサミット大会　大淀川クリーン作戦

12 都城大淀川サミット

コットン収穫祭　五ヶ瀬大橋花壇岡富中学生による花菖蒲植え付け

43 コノハナロード延岡市民協力隊

第3回 River Crew Festival

- リバークルーフェスティバル in 球磨川 -

River Crew とは？

River Crew（リバークルー）とは、「川を愛する次世代の仲間たち」。

かつて、川は人々の生活に密着した関わりがありました。飲み水にしたり、洗濯をしたり。何より子ども達にとって川は楽しい遊び場であり、学びながら成長していける場所でもありました。文明が発展すると共に、災害を未然に防ぐために河川の改修工事が進みました。生活用水を確保するためのダムが出来て、私たちの暮らしは安全で豊かなものになりました。その一方で、工場排水や生活用水で汚染される川も少なくなり、少しずつ、川と人の距離は離れていきました。River Crewとは、そんな現代において、川を愛し様々な取組をしている20-50代の次世代の人々の事を言います。2019年から始まったこの取組は、第1回目＝筑後川・第2回目＝緑川で開催し、大好評を得てきました。

2020年８月８日（土）八代市で開催決定！

第３回目は熊本県八代市の「八の字堰多目的広場」を会場に開催される事が決定！！

今回も九州各地から次世代のRiverCrew達が集い、自慢の体験を持ち寄ります。思い切り遊んで、川の楽しさ・魅力を発見しよう！！また、防災・環境という観点からも改めて川と向き合い、未来の川との付き合い方に触れるきっかけの1日になるはずです。球磨川を愛し、大事にしたいという思いが育まれる、素敵な1日になりますように、皆さんのご来場をお待ちしております。

◆川あそび情報誌「九州かわとも」を支援して頂いている賛助企業の皆様◆

㈱有明測量開発社 〒861-4108 熊本市南区幸田 2-7-1	**九州電力㈱　水力発電本部** 〒810-8720 福岡市中央区渡辺通二丁目 １番 82 号	**㈱西技計測コンサルタント** 〒826-0041 田川市弓削見立 3175
㈱池田建設 〒861-5401 玉名市天水町小天 7371	**㈱共同技術コンサルタント** 〒880-0824 宮崎市大島町山田ヶ窪 1926 番地 1	**㈱西日本科学技術研究所** 〒780-0812 高知市若松町 9 番 30 号
いであ㈱ 九州支店 〒812-0055 福岡市東区東浜 1-5-12	**㈱建設技術研究所　九州支社** 〒810-0041 福岡市中央区大名 2-4-12	**西日本技術開発㈱** 〒810-0004 福岡市中央区渡辺通 １丁目１番１号
応用地質㈱　九州事務所 〒811-1302 福岡市南区井尻 2-21-36	**国際航業㈱　九州支社** 〒812-0013 福岡市博多区博多駅東 3-6-3	**日鉄鉱ｺﾝｻﾙﾀﾝﾄ㈱　福岡支店** 〒820-0053 飯塚市伊岐須字井手浦 １番 356 号
㈱大本組　九州支店 〒810-0041 福岡市中央区大名 2-4-30 西鉄赤坂ビル	**五洋建設㈱　九州支店** 〒812-8614 福岡市博多区博多駅東 2-7-27	**日本工営㈱　福岡支店** 〒812-0007 福岡市博多区東比恵 １丁目２番 12 号
㈱奥村組　九州支店 〒805-8531 北九州市八幡東区山王 2-19-1	**砂防エンジニアリング㈱** 〒350-0033 埼玉県川越市富士見町 31-9	**㈱ニュージェック** 〒531-0074 大阪市北区本庄東 二丁目 3-20
㈱柿原組 〒810-0022 福岡市中央区薬院 3-4-21	**第一復建㈱** 〒815-0031 福岡市南区清水４丁目 ２番８号	**㈱不動テトラ九州支店** 〒812-0011 福岡市博多区博多駅前 4-1-1
技研興業㈱　九州営業所 〒812-0007 福岡市博多区東比恵 2-20-25	**㈱大進** 〒890-0016 鹿児島市新照院町 21 番７号	**松尾建設㈱（福岡本社）** 〒810-8506 福岡市中央区薬院三丁目 ４番９号
㈱九州開発エンジニヤリング 〒862-0912 熊本市東区錦ヶ丘 33 番 17 号	**中央開発㈱　九州支社** 〒814-0103 福岡市城南区鳥飼 6-3-27	**松本技術コンサルタント㈱** 〒871-0161 中津市上池永 1285-10
九州建設コンサルタント㈱ 〒870-0946 大分市大字曲 936-1	**㈱東京建設コンサルタント 九州支社** 〒812-0016 福岡市博多区博多駅南 2-12-3	**三井共同建設コンサルタント㈱ 九州支社** 〒812-0013 福岡市博多区博多駅東 ２丁目 14 番１号
㈱九州建設マネジメントセンター 〒812-0013 福岡市博多区博多駅東 ２丁目 5-19	**飛島建設㈱　九州支店** 〒810-0004 福岡市中央区渡辺通 5-14-12	**㈱牟田建設** 〒842-0103 神埼郡吉野ヶ里町大曲 1756

【五十音順】

川あそび情報誌「九州かわとも」事務局

■九州河川協力団体連絡会議

■（一社）北部九州河川利用協会内
〒839-0801 久留米市宮ノ陣3-8-8
TEL.0942-34-6733　FAX.0942-32-6977